

地域で子どもたちを育てよう！ 《小学校スポーツの変革》 《小学校運動部活動の社会体育化》

前月号から始まった連載特集2回目の今回は「小学校運動部活動の社会体育化の目指すべき姿と効果」をご紹介します。

少子化の影響は、団体競技のチームが組めなくなるなど、子どもたちのスポーツ環境に現れています。解決策として構築を目指しているのが、大人や地域が子どもたちのスポーツ環境を支えるシステム「小学校運動部活動の社会体育化」です。では、社会体育化が実現すると、一体どうなるのでしょうか？

自由なスポーツを選択し、自分がやりたいスポーツができるようになり

これまで子どもたちに与えられた選択は、自分が通う小学校部活動が基本でした。そのため、やりたいスポーツが自分の小学校にない場合、そのスポーツを諦めることがほとんどでした。社会体育化の実現により、これからは多くの枠組みの中から選択することができるようになります。

例えば、自分の小学校区の団に希望種目がない場合は、他の地域団への所属が可能になります。

地域団の枠組みは、その地域の特性や児童数などにより、様々な形態が考えられます。

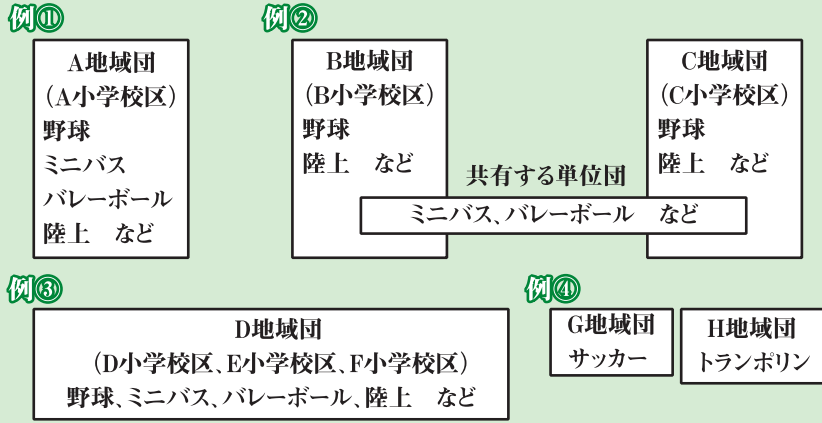
例① 今までの小学校区をそのまま地域団とする形態

例② 隣接する地域団で共有の単位団を持つ形態

例③ 隣接する小学校区が一つとなり活動する形態

例④ 市全体を一つのまとまりとして活動する形態

社会体育化移行後のイメージ図



地域を支えられ、地域と共に！

スポーツ少年団活動を支え、進めていく大人の集まりを「育成母集団」と言い、団に所属する子どもは保護者に限らず、次のような気持があれば地域の誰でもメンバーになることができます。指導者として、子どもたちに自分の得意なスポーツを教えたい。

◎子どもたちと一緒に様々な活動をし、健全育成の力になりたい。

◎子どもたちの元気な姿を身近で見たい。

◎町内会や商店会でスポンサーとなつて、子どもたちの活動を支えたい。

大人たちが協力し合い、子どもたちのスポーツ活動を支援していく中で、地域のつながりもより広く、より深くなるのではないのでしょうか。

また、大人も自分の興味や技能を生かしながら、新たな生きがいを持ち、地域全体が活性化していくことも社会体育化の効果と言えるでしょう。



既に社会体育として活動しているサッカー競技

目指すべき姿と効果

地域で子どもたちの豊かなスポーツ活動を支え、子どもたちは希望するスポーツの楽しさを味わい、大人と子どもがともに活気ある地域の中で、生き生きとした生活を営む。

- 子どもは
- 自分のやりたいスポーツを選択できる。
 - 様々なスポーツを経験できる。
 - 専門的な指導の下でスポーツができる。
 - 交流活動により、仲間を増やせる。
- 大人は
- ◆指導者として、自分の興味や技能を生かせる。
 - ◆育成母集団メンバーとして、育成に関わることができる。
 - ◆地域の活動として、支援・応援していくことができる。
- 地域は
- 住民同士や地域間のつながりが広く、深くなる。
 - 活性化し、子どもたちの社会参画意識が高くなる。



交流活動でテントの張り方を学ぶ団員

次回7月号は...

○社会体育化の進め方は？
○実践団体に聞く「社会体育化にして良かったこと、今後の課題」
「社会体育化を進めている地域団の紹介」を特集します。

問い合わせ

スポーツ課 体育係
☎ 43-71136
学校教育課 学事係
☎ 43-71112